

いざというときの 地域の支え合い

～災害時要援護者避難支援～



いつ起こるか分からない災害。少子高齢化や核家族化が進む中、万が一のときに頼りになるのが隣近所をはじめとした地域の力です。今回は、災害発生時の避難に支援を必要とする方を地域全体で支え合う取り組みや、災害に対する日ごろからの準備を紹介します。



災害時の避難に支援が必要な人がいます

災害が発生したとき、一人暮らしのお年寄りや体の不自由な方など（要援護者）は、自分や家族の力だけで避難することが難しい場合があるため、まわり（地域）の人の支援が必要です。



どうして支え合いが大事なの？

○阪神・淡路大震災（平成7年）での救出状況

約27,100人 (約8割)	約7,900人 (約2割)
家族・近隣住民により救出	警察・消防・自衛隊により救出

阪神・淡路大震災では、倒壊した家屋などに閉じ込められた人たちの約8割が、家族や近隣住民に助けられています。

大きな災害の発生直後など一刻を争うときには、警察や消防、自衛隊などによる救助が間に合わないことが、過去の災害から明らかになっています。

このため、要援護者の避難支援は、隣近所をはじめとした地域の支え合いが重要となります。

安心して暮らせる地域づくりのために

まずはあいさつや見守り活動など、ご近所付き合いを大切にし、良い関係を築いておくことから始めましょう。お互いのことをよく知っていると、いざというときでも素早く行動でき、結果として多くの命を守ることに繋がります。



災害に備えてみんなが支え合い、安心して暮らすためには、どのように取り組めば良いのでしょうか？

確認しておこう！

個人や家庭でできる日ごろからの準備

いざというときに自分の身を守るためにも、日ごろから防災に関心を持つことが大切です。次のような準備のほかにも必要な対策がないか、ご家庭でも考えておきましょう。



●防災についてのお問い合わせ 区役所総務企画課地域安全担当係

☎822-2400（内線252）